

## 第 42 回講演会開催報告

橋本運営委員長あいさつ

年に一回の講演会は、毎年識者の方においでいただいて、ビジネスに大変参考になるお話を伺っております。ご承知の通り、米中貿易摩擦という、ほとんど経済戦争のような状況で世界経済が揺れ動いている、あるいは香港問題の先が見えない状況でございます。このあたり私どもは新聞情報しか持っておりませんが、藪内先生はそのあたりも非常に深いところまでご存知のようでございますし、またいろいろご指導いただけたと思います。本日の講演会が皆さまにとりまして、大変実り多きものになるように祈念をいたしまして、簡単ではございますがあいさつとさせていただきます。

1. 日時：令和元年 11 月 1 日（金）16：00～17：30（講演会終了後、懇親会）
2. 場所：大和ハウス工業株式会社 東京本社ビル 2F コンベンションホール
3. 講師：藪内正樹氏（敬愛大学教授）
4. テーマ：「世界史の転換期における中国と日本～中国をどう理解しどう向き合うか」
5. 参加人数：41 社 114 名

### 藪内正樹氏講演

〔中華とは何か〕

中華とは何かというと、漢民族の国家ではなくシステムです。二千年も前の中央集権制、律令制、統一文字などのシステムがあまりにも優れていたため、皇帝の出身の民族はさまざまであっても、このシステムだけが維持され、今現在も使われているのが一党独裁の中華人民共和国のシステムではないかと思えます。

〔経済成長の要因〕

中国の GDP の支出項目の内訳で、1950 年代最も構成比が高かったのは民間消費でした。2006 年以降、最も構成比が高くなった固定資産投資が増え続けることによって中国経済は成長してきました。一方最初は 60%を超えていた民間最終消費が、2017 年は中国の 38.4%に対して、ブラジルは 63.4%、日本は 55.5%、輸出比率が非常に高いドイツ国でも 52.9%あって、アメリカは生産よりも消費が遥かに大きい国ですので 68.4%になっています。大国では 60%以上、少なくとも 50%以上あるのが普通の姿です。これが昨年でも 38.4%ということは、民間最終消費が過小で、投資で引っ張ってきた経済であるといえます。

これが中国の経済の特徴で、投資で引っ張った結果、不動産投資は過熱して、売買をさせない、値崩れをさせないようにしているので、不動産バブルは崩壊こそしませんが、誰も住んでいないマンションが林立して、建設資材の質が悪いため数十年経ったら資産価値がなくなるという問題を抱えています。それから固定資産投資の中の設備投資により、生産力が過剰になり、さまざまな分野の工業製品が過剰であることから、値下げをして輸出ドライブをかけることがしばしば起きています。

〔経済成長の今後の見通し〕

リーマンショックといえば、もう 11 年も前の話ですが、V 字型景気回復を図るために 4 兆元の経済対策を行いました。その事業はほとんどがインフラ整備などだったので、全額がセメント、鋼材、建設業などの国有企業の収入になりました。さらに公共事業が国有企業に発注されたことにより、利権構造がますます強固なものになったといわれています。また地方政府は財政が苦しく、4 兆元の財源の 3 分の 1 は地方政府が調達せねばならず、シャドーバンクで市中から資金を集めたことにより、急速に債務が膨れていきました。



#### [デジタルチャイナと米中衝突]

インターネットの現在の普及は目覚ましく、世界トップクラスでインターネットサービスが利用されていて、アメリカ以上に普及しています。なぜそれほど急速に普及したかという点、政府が集中的に投資した側面もあると思います。それまで中国の社会があまりに不便な社会だったので、スマートフォンのアプリでいろいろなことができるあまりの便利さから、子供からお年寄りまで急速に普及したと、野村総研にいる中国人研究者の方が勉強会で話されました。

トランプ大統領の対中政策は、さまざまな経緯が去年から今年にかけてありました。香港の事態については、アメリカの対中批判である香港人権民主主義法案が下院で可決され、超党派の動きなので上院でも可決されトランプ大統領もサインするだろうといわれています。また今年のペンス副大統領の演説は世界と中国に衝撃を与えました。そして先週 2 回目のペンス副大統領の演説が行われました。中国は南シナ海にミサイルを配備し、尖閣諸島海域に 60 日間連続艦船を接近させており、日本の中国に対するスクランブル発進が今年は過去最高だと言いました。重視したいのは、アメリカ企業に対して、香港の自由を支持し、価値観共有のためには妥協をするなどと言いました。そして最後に、中国の発展を抑え込むつもりはなく、建設的な関係を望み、新冷戦状態として世界を中国圏とアメリカの自由主義圏に分割するデカップリングは求めないと言いました。しかしこれは、望まなくてもそうならざるを得ないということ、暗に言っているのかもしれない。

#### [日本として中国とどう向き合うか]

中国との国交樹立に企業人として関与された岡崎嘉平太先生が常々おっしゃっていたのは、周恩来総理が言った、「日本の侵略戦争によって多大な損害を被ったことを深く恨んでいるが、今後はこの恨みを忘れ、日本と中国が力を合わせて、アジアを良くし強くし、アジアに付けた力で外に侵略するのではなく、将来再びアジアを侵略するものがあれば手を握り合って払い除けよう」という発言に共感し、この考え方で日中関係を発展させようと深く納得したという話です。あの時代のアジアを良くしようという考え方には共感できても、最近の南シナ海や尖閣、一帯一路の借金漬け外交を岡崎先生がご覧になったら、果たして同じことを思ったのか。今は新しい時代になったと私は思います。

最後に、世界の枠組みが大転換しているなか、日本としてどう考えるべきか。歳をとると日本の現状が心配で、いろいろな事を言いたくなります。世の中みんなマニュアル化されて、自分の立場のための議論、発言しかしない。先祖先人に感謝できない、日本を誇りに思わず、大切に思わないという日本人の心理は、GHQ が占領政策で戦争犯罪キャンペーンを 7 年間続けた影響だと、インターネットでいろいろな番組を見ているうちに思いました。

ラグビー日本代表から学んだのは、大切な仲間というのは国籍や民族ではないということ。31 人中 15 人の外国出身のあの選手たちが、日本を選び、日本を代表し、日本を大切にし、日本のためにどれだけ努力したか。ラグビー以外のことは全て犠牲にしてきたあの人たちは仲間だと思いましたが、外国人労働者が増えていくこれからの日本社会へのヒントです。日本人であればよく、外国人は嫌だというのは話が全然違うということを最近教わりました。



講演会終了後、会場を大和ハウス工業 (株) 東京本社ビル 23 階レストランに移して懇親会を開催し、講師の藪内様を含む 100 名の方にご参加いただきました。藪内様には、出席者の多くの皆様と交流していただきました。

講演会の内容については、会報誌「日中建協 NEWS」No.243 号 (2020 年 1・2 月号)、No.244 号 (2020 年 3・4 月号) に詳しく記載しています。